

令和 2 年度 第 1 回神戸市行財政改善懇談会 意見要旨

1. 財政の観点

- ・大型の投資は必要性に応じて再検討も必要
- ・データ化によるエビデンスに基づいた事務事業の見直しが必要
- ・ふるさと納税や今ある資産の活用など新たな財源を確保する仕組みの検討

2. 投資の観点

(1) 中長期的な視点

- ・短期的な歳出削減に捉われず（短期的には歳出が増加するかもしれないが）、中長期的に最適化を図りトータルコストを抑えるという視点も必要

(2) まちの魅力を高める視点

- ・シニアにとって魅力的なまちにして生産年齢人口の概念を拡大
- ・大学を卒業した学生（若者）にとって魅力的なまちに
- ・「コミュニティ」、「地域」という視点で魅力を高めるということも重要
- ・「文化」というソフト面の魅力を高めることも重要
- ・民間の資金や人、ノウハウを活用して、より良いサービスを市民に提供するスマートシティの推進も重要

3. 運営の観点

(1) 制度・仕組み

- ・自主経営を進めていくにあたり、部分最適にならないよう、全体最適の視点で「横ぐし」を考える必要
- ・自主経営では共通指標を使って目標を達成していく仕組みが必要
- ・区役所業務の縮小ではなく、区に求められる機能を考えるべき
- ・人口が減り情報技術が進む中で、今の区割りが合理的なのか検討が必要
- ・トップダウンではなく、現場と双方向にコミュニケーションをとりながら、現場のコミットや関与に対する意識を高めるべき
- ・職員が自分ごと化するためには、「見える化」や、取り組みの成果を幹部の評価や昇進にシンボリックに反映させる評価制度が必要
- ・各局室区の好事例をプラスに評価することで、全体への浸透を図ることが可能
- ・5年後の目標だけでなく、中間的な目標を置いて進捗管理をすることも重要
- ・新型コロナウイルス感染症対策において、神戸モデルの構築など一律からの脱却は有効

(2) 職員体制

- ・職員のワーク・ライフ・バランスを考える必要
- ・いかに職員がコミュニティに従事していくか、地域で働く時間を作っていくかについて積極的な検討が必要
- ・部署を超えた繁閑等の負荷に対する柔軟な人の配置（最適な資源配分）が重要
- ・柔軟な人の配置には、職員のスキル向上が必要であり、人材育成や業務の標準化といった視点も重要
- ・人員数の問題は、働いている人のモチベーションにも関わる問題であり、丁寧な説明が必要